

2011年2月23日

報道関係各位

ひざの痛みを持つ40歳以上の男女1,034名を対象とした “ひざの痛みへの対処法・満足度実態調査”を実施

80.2%が「ひざの痛みがあっても病院に行かない」

「階段の上り下りがつらい」「立ち上がるのがつらい」
病院に行かない人の79.9%が日常生活に不便を感じている

「病院に行く」患者さんの70.7%が「痛みの改善」を実感
自分なりの対処で済ますのではなく、初期受診・治療が重要です

関節機能改善剤「アルツ[®]」の製造・販売を行う生化学工業株式会社(本社:東京都千代田区、代表取締役社長:水谷 建)は、ひざの痛みに悩んでいる40歳以上の男女1,034名を対象に「ひざの痛みへの対処法・満足度実態調査」を実施しました。

本調査によると、ひざに痛みがあるにもかかわらず「病院に行かない」と答えた方は80.2%にもものぼり、その多くが「我慢をする」、「市販の湿布を貼る」など、自分なりの対処法で済ませていることが分かりました。「病院に行かない」理由で最も多かったのは、「病院に行くほどでもない」(52.2%)ですが、このうち79.9%が「階段の上り下りがつらい」、「立ち上がるのがつらい」など、日常生活で何らかの不便を感じていることが明らかになりました。一方で、病院で受診し治療を受けた方の70.7%が「痛みが改善した」と実感していることが分かりました。このことから、ひざに痛みを抱えている人の多くが日常生活に支障を来しているものの、症状を軽く考えており、受診・治療による痛みの改善の機会を逃していると推察されます。本調査結果の要約につきましては、別紙をご参照ください。

中高年のひざの痛みの原因として最も多い変形性ひざ関節症は、初期の段階から専門医による適切な治療を受けて病気の進行を遅らせることが重要と考えられています。そのためには、患者の方々に「ひざの痛みは変形性ひざ関節症かもしれない」「適切な治療を受ければ痛みを軽減することができる」ということを認識していただくことが重要です。生化学工業株式会社では、ひざの痛みに悩む方々へ正しい知識をご提供することを目的とした、情報ウェブサイト「ひざイキイキ」や新聞広告やなどでの疾患啓発活動を展開し、変形性ひざ関節症治療に貢献していきます。

以上

本調査結果は、2月22日(火)に東京・コンファレンススクエア エムプラスにて開催したメディアセミナー「ひざの痛み。正しく知って、ひざイキイキ！」で発表しました。また、今後、中高年の方々の“歩く”喜びを応援するウェブサイト「ひざイキイキ」(URL: <http://www.ehiza.jp/>)においても、詳細結果を掲載する予定です。

<別紙>

【「ひざの痛みへの対処法・満足度実態調査」概要】

目的： ひざの痛みの治療・受診に対する意識を把握する

調査対象： ひざに痛みを持つ40歳以上の男女1,034名

調査方法： インターネットによるアンケート調査

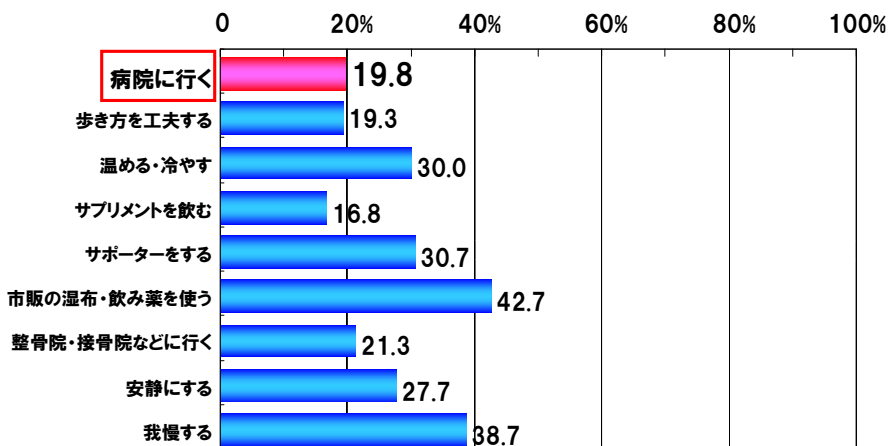
実施期間： 2011年1月27日(木)～2011年1月28日(金)

【アンケート結果の要約】

1. 80.2%がひざに痛みがあっても、「病院に行かない」

「ひざが痛いときにはどのような対処をしますか？」(複数回答)という設問に対して、「病院に行く」と回答したのは、19.8%に過ぎず、80.2%が受診していないことが分かりました。一方、「市販の湿布・飲み薬を使う」(42.7%)、「我慢する」(38.7%)など、多くの方々が自分なりの対処で済ませていることが明らかになりました。

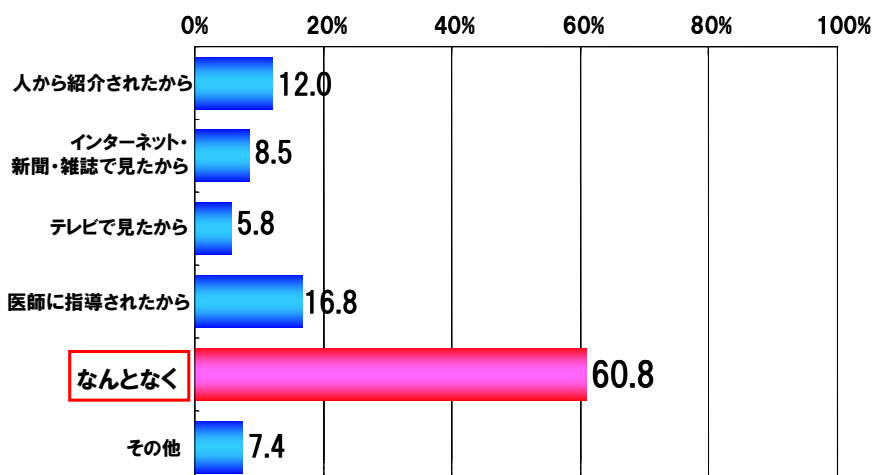
Q. ひざが痛いときにはどのような対処をしますか？(MA)



2. 現在行っている治療や対処法を選んだ理由は、「なんとなく」

「なぜその治療や対処法を選んだのですか？」という設問に対しては、「医師に指導されたから」(16.8%)、「人から紹介されたから」(12.0%)など、第三者から得た情報に基づくのではなく、「なんとなく」(60.8%)と、特に根拠なく対処法を選んでいる傾向が強く示されました。

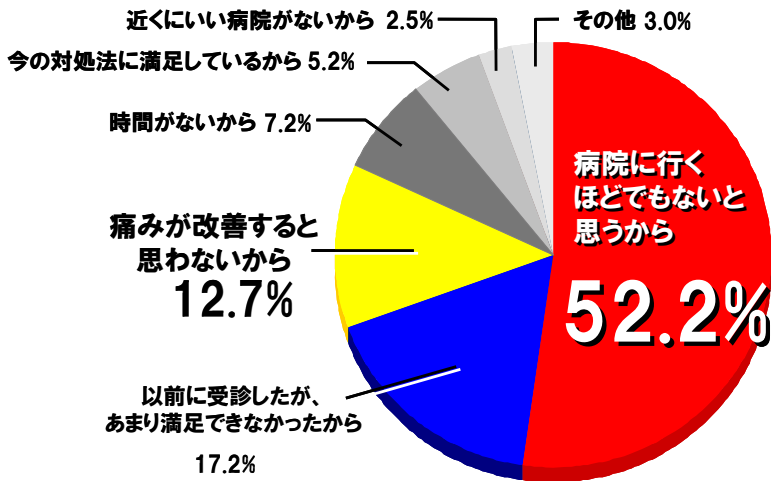
Q. なぜその治療や対処法を選んだのですか？(SA)



3. 病院を受診しない理由は「病院に行くほどでもない」が半数以上

1. の設問「ひざが痛いときにはどのような対処をしますか？」で、「病院に行く」と回答しなかった方々(80.2%)に、「病院を受診しない理由」をお聞きしたところ、「病院に行くほどでもないと思うから」(52.2%)が最も多く、ひざの痛みを安易にとらえている様子が見受けられました。また、「痛みが改善すると思わないから」(12.7%)とすでにあきらめているとも取れる声もあり、ひざの痛みに対する治療を十分に認識していない状況が見受けられました。

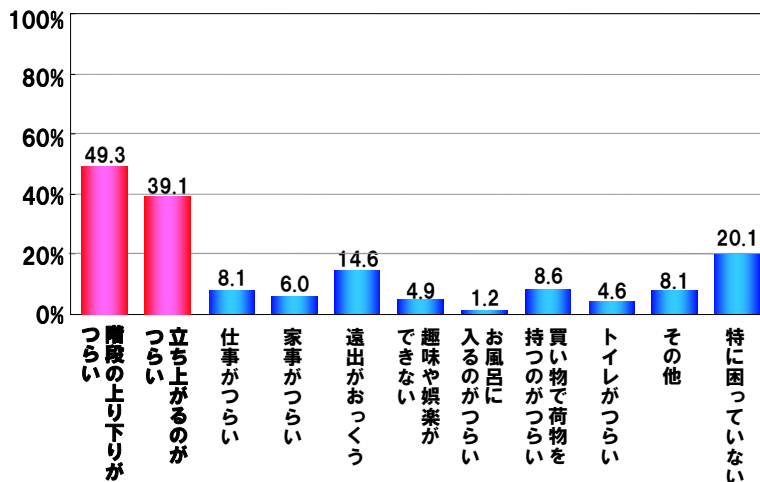
Q. 受診しない理由は何ですか？(SA)



4. 「病院に行くほどでもない」としている人のうち、79.9%が日常生活に不便を感じている

さらに、「病院に行くほどでもないから受診しない」と回答した方々に、ひざが痛くて困ることについて質問したところ(複数回答可)、「特に困っていない」という人は 20.1%にとどまり、「階段の上り下りがつらい」(49.3%)、「立ち上がるのがつらい」(39.1%)など、多くが日常生活の基本的な動作に不自由を感じていることが明らかになりました。

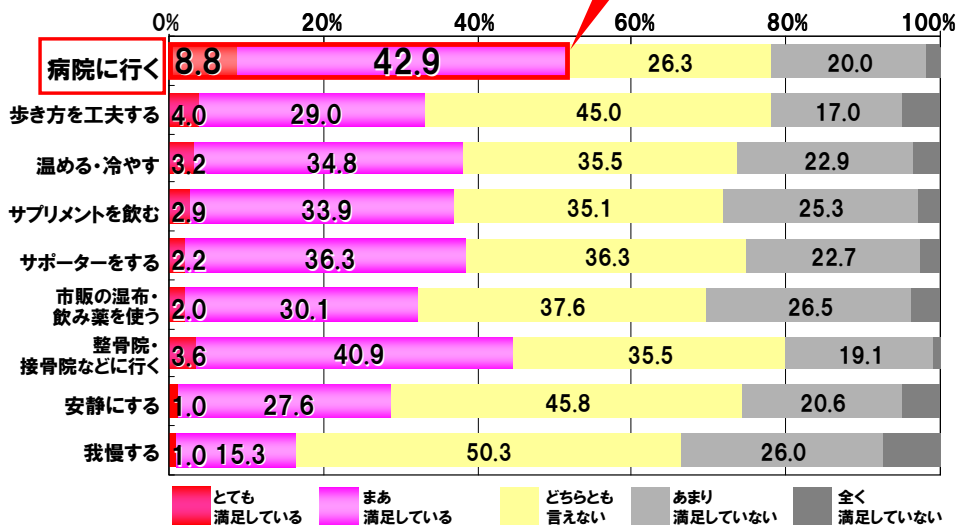
「病院に行くほどでもないから受診しない」と答えた人が、ひざが痛くて困ること (MA)



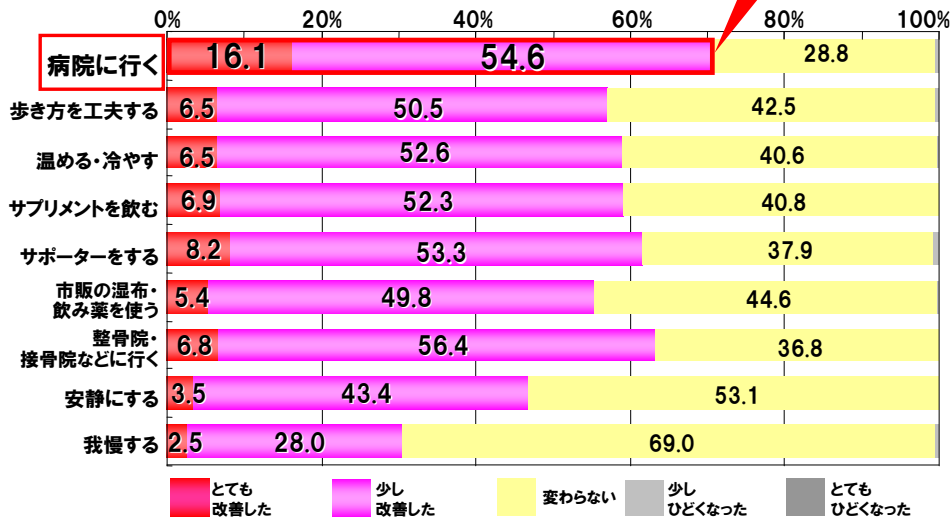
5. 病院を受診している人の 70.7%が「痛みの改善」を実感

一方、1. の設問「ひざが痛いときにはどのような対処をしますか？」で、「病院に行く」と答えた方々のうち、その治療に対して「とても満足している」(8.8%)、「まあ満足している」(42.9%)を合わせると5割以上(51.7%)となっており、他の対処法に比べ病院での治療が最も高い満足度となっていることが分かりました。さらに、治療を受けたことにより、ひざの痛みが「とても改善した」(16.1%)、「少し改善した」(54.6%)を合わせた 70.7%が、痛みの改善を実感していることが示されました。

ひざの痛みの対処法別 「満足した」と感じている割合 (SA) **51.7%**



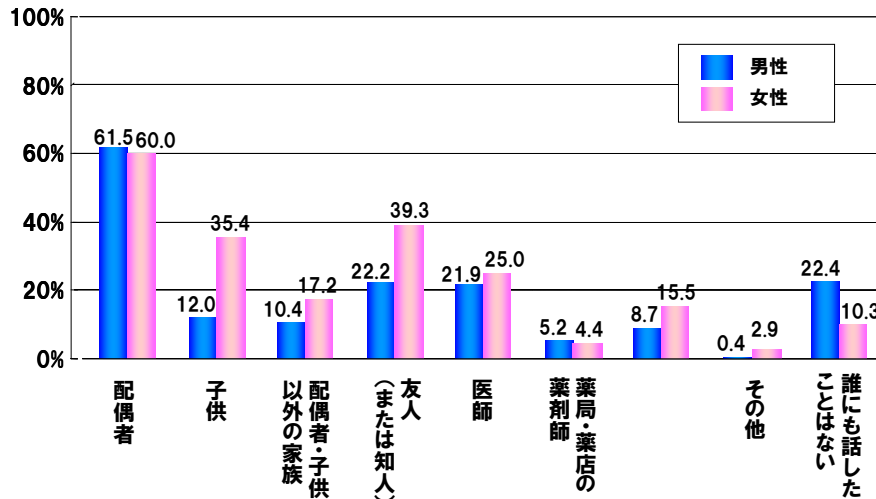
ひざの痛みの対処法別 「痛みが改善した」と感じている割合 (SA) **70.7%**



6. ひざの悩みを相談する相手に男女差が判明

「ひざの痛みを誰かに話しましたか？」(複数回答)という設問に対して、「配偶者」(男性 61.5%、女性 60.0%)が男女それぞれ 1 位を占めました。その他の相談相手では、子供(男性 12.0%、女性 35.4%)、友人(男性 22.2%、女性 39.3%)と、女性は幅広い相手に相談しているのに対して、「誰にも話したことはない」(男性 22.4%、女性 10.3%)と、男性は配偶者以外にはあまり相談していない場合が多いことが分かりました。

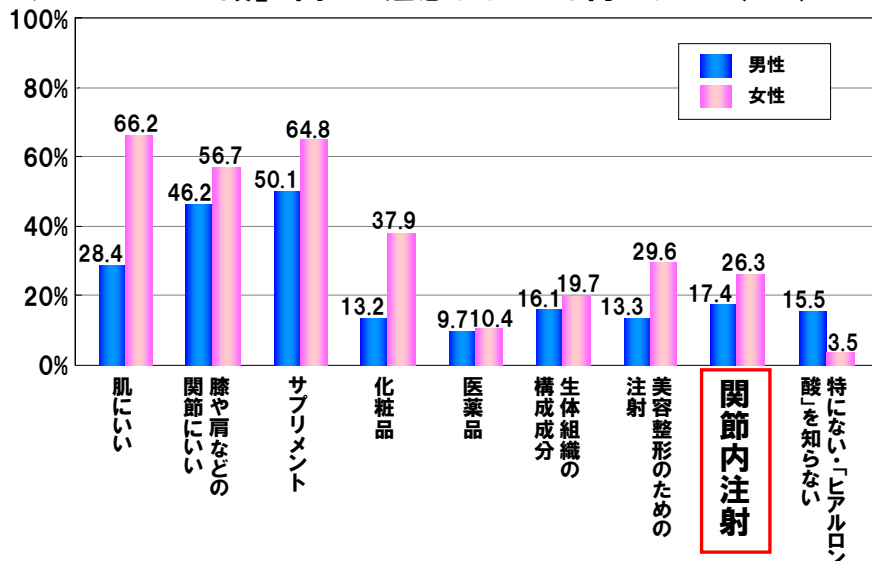
Q. ひざの痛みのことを誰かに話しましたか？(MA)



7. ヒアルロン酸の関節注射剤の認知度はまだ低い

「あなたが『ヒアルロン酸』と聞いて連想することは何ですか？」(複数回答)という設問に対して、「肌にいい」(男性 28.4%、女性 66.2%)、「ひざや肩などの関節にいい」(男性 46.2%、女性 56.7%)、「サプリメント」(男性 50.1%、女性 64.8%)が多く、また女性の方々は選択肢を多く選んでいることから、「ヒアルロン酸」についての知識が豊富であることが分かりました。一方で「関節内注射」(男性 17.4%、女性 26.3%)は、男女ともにまだ認知度が低いことが示されました。

Q. 「ヒアルロン酸」と聞いて連想することは何ですか？(MA)



【日本大学総合科学研究所 教授 龍 順之助 先生のコメント】

変形性ひざ関節症は中高年の間でよくみられる疾患で、日本人の 2,530 万人が罹患していると考えられ、780 万人はひざの痛みを悩んでいるといわれています。ひざに痛みが生じ、進行すると歩行に障害が出て介護が必要となる疾患です。患者が多いにもかかわらず受診をされる方々が少なく、今回の調査結果でも「約 8 割が受診していない」ことが分かりました。この疾患はひざの軟骨がすり減り、ひざに炎症が起こります。すり減った軟骨は元に戻らず、半数以上の方々が「病院に行くほどではない」と考えていることは、疾患に対する認識がまだまだ低く、今後一層の疾患啓発が重要だと考えます。この疾患は、早期の段階であれば筋力トレーニングや日常生活の改善で症状が回復に向かうことが期待できます。より充実した生活を送るためにも、ひざに痛みを感じたら専門医の診断と治療を受けることが重要です。

【近畿大学医学部奈良病院整形外科・リウマチ科 教授 宗圓 聰 先生のコメント】

今回、ひざに痛みがあり医療機関を受診した方々の半数以上が治療に満足しており、約 7 割がひざの痛みが改善したと感じているというのは大変重要な結果だと考えます。現状では変形性ひざ関節症を元のように治す治療方法は無く、病気の進行を抑え、痛みを取る治療となります。自己対処で進行してしまった患者様を診ると「なぜここまで我慢したのだろう」と残念でなりません。市販の湿布や飲み薬などで症状の緩和もできますが、ヒアルロン酸の関節内注射にはひざ関節の軟骨を保護し、病気の進行を遅らせる効果も期待できます。ひざが痛いと感じたら、自己対処で済ますのではなく、初期の段階から医師と一緒に症状に合わせた適切な治療を行っていく気持ちが大切です。

【ご参考】

■生化学工業株式会社について

生化学工業は、糖質科学に研究開発の焦点を絞り込み、独創的な医薬品・医療機器の開発・供給を通じて、世界の人々の健康で心豊かな生活に貢献することを目指す研究開発型の製薬企業です。

会社名： 生化学工業株式会社
本社所在地： 東京都千代田区丸の内一丁目 6-1 丸の内センタービルディング 10F
代表者： 代表取締役社長 水谷 建
設立： 1947年6月2日
事業内容： 複合糖質を中心とした医療用医薬品および医療機器等の製造・販売
上場証券取引所： 東京証券取引所市場第一部（証券コード 4548）
従業員数： 637名（連結ベース）
資本金： 3,840百万円
売上高： 27,617百万円
ホームページ： <http://www.seikagaku.co.jp/> (2010年3月31日現在)

■関節機能改善剤「アルツ[®]」について

生化学工業は、関節機能改善剤「アルツ[®]関節注 25mg」・「アルツディスポ[®]関節注 25mg」（一般名：ヒアルロン酸ナトリウム）を製造・販売しており、国内では、科研製薬株式会社に販売を委託しています。ヒアルロン酸は、関節軟骨や関節液に多く存在し、軟骨の水分や弾性を保ち、関節の動きを滑らかにするなどの役割を果たしています。変形性ひざ関節症になると、このヒアルロン酸が減少することが知られています。関節機能改善剤「アルツ[®]」は、関節の中に直接ヒアルロン酸を注射することで、関節痛を和らげ、炎症を抑える効果があります。「アルツ[®]」は、世界 21 カ国で承認を取得し、これまでに国内外で 2.3 億本以上の使用実績を重ね、変形性ひざ関節症の治療に貢献しています。

■中高年の方々の“歩く”喜びを応援するウェブサイト「ひざイキイキ」(<http://www.ehiza.jp/>)について

変形性ひざ関節症の受診促進活動の一環として、ひざの痛み悩まれる方々のために疾患の予防、治療法などの情報を提供するウェブサイトです。

『変形性ひざ関節症について』： 症状や原因などについて解説

『ひざの痛み簡易チェック』： 「変形性ひざ関節症」かどうかを確認できるチェックシートを掲載

『お医者さんを探そう』： 病院検索ウェブサイト「ヘルスクリック」にリンクを設定し、「変形性ひざ関節症」の治療を行っている近隣の医療機関を紹介

『おうちでできる簡単エクササイズ』： ストレッチなどの理学療法を紹介

開設：2010年3月1日

以上

本件に関するお問い合わせは次にお願ひします。

生化学工業株式会社 医薬営業部 TEL. 03-5220-8973